

豊かな文化を育んできた 石川の風土・歴史とこれまでの取り組み

1. 石川の風土と歴史



白米千枚田（輪島市）



白山（白山市）



菱櫓・五十間長屋（金沢市）

風 土

石川県は、本州のほぼ中央部に位置し、東は富山県と岐阜県に、南は福井県に接し、北は能登半島となって日本海に突き出しています。地形は、南西から北東に向かって細長く、東西 100.9km、南北 198.4km、海岸線は 580.6km の延長を有しています。

能登半島には、断崖や岩礁からなる荒々しい能登外浦と波の静かな能登内浦の対照的な地形が発達しており、白米の千枚田など農山漁村の原風景や多様な生物資源など世界農業遺産に認定された能登の里山里海が広がっています。

加賀は、数多くの動植物が生息する原生林が広範囲にわたり残っており、霊峰白山から流れ出る河川は、人々に豊富な水をもたらし、手取川扇状地や加賀平野が形成され、広大な穀倉地帯が広がっています。

そして、県都金沢には、加賀百万石の歴史と伝統文化が現代に息づいており、歴史の風情が漂う長町武家屋敷群など歴史・文化を伝える街並みが残っています。

歴 史

ふるさと石川の先人たちは、豊かな自然の恵みを受けながら、さまざまな地域の人々との交流を通じて、独自の歴史と文化を積み重ねてきました。

太古の縄文時代には、真脇遺跡などの出土品から、当時の人々が高度な土木技術や漆を利用する知識を持っていたとみられています。古代には、日本列島の東西文化をつなぐ回廊としての役割を担いながら、高句麗や渤海国との交流が盛んな大陸交渉の窓口でもありました。

中世は、白山や石動山が山岳信仰の聖地として仰がれ、真宗門徒らによる加賀一向一揆など、宗教との関わりの中で、人々のエネルギーがみなぎる時代だったと言えます。また、能登では、北海道から関西まで広い地域で流通した珠洲焼が大量に生産されていたほか、京都から多くの文化人が来遊し交流を深めるなど、地方文化の土壌を育んでいました。

江戸時代になると、加賀百万石の城下町金沢は、江戸、大坂、京都に次ぐ人口規模を誇り、大きなにぎわいを見せました。加賀藩の文化奨励政策により、九谷焼や加賀蒔絵、象嵌、金箔、友禅など多岐にわたる工芸が発展し、その技と心は現在の「工芸王国石川」

へと受け継がれています。また、武家文化は、「加賀宝生」と称される能楽、邦楽などの伝統芸能、茶道や華道に代表される生活文化、さらには豊かな庭園文化を育みました。

明治期以降は、学術の分野で日本を代表する学者や文学者を数多く育て、金沢を中心に培われたこうした高い精神性は、今日の学都石川の礎となっています。

また、県内の各地域において、人の暮らしの中で、長い時間をかけて形づくられてきた里山里海や豊かな食文化などについても、本県独自の文化資源として位置付けることができます。

このように、永い歴史の中で連綿と受け継がれ、発展してきた伝統的な文化に加え、近年では、オーケストラ・アンサンブル金沢をはじめとした新たな文化の創造や金沢城公園の史実に沿った復元整備なども進められており、これらすべてが石川の層の厚い文化を形成しています。

2. これまでの取り組み

県では、平成9年に「石川県文化振興指針」を策定し、「伝統文化の継承・発展」、「新たな文化の創造・発信」、「文化的生産システムの構築」の3つの目標を掲げ、次の5つの基本方針に沿った文化振興施策を進めてきました。

I 文化の創造と発展のための基盤整備

文化創造・発信拠点の形成

石川の文化の受発信基地となる施設の整備を進めてきました。

音楽堂の建設

平成13年に、北陸3県で初の本格的なパイプオルガンを備えた「コンサートホール(1,560席)」、回り舞台、迫り、花道など本格的な機能を備えた「邦楽ホール(720席)」、多目的に利用できる「交流ホール」の3つの特徴あるホールからなる音楽堂を建設しました。



音楽堂コンサートホール

●兼六園周辺文化の森の整備状況とオープン年

- 平成13年 伝統産業工芸館(リニューアル)
- 平成20年 石川四高記念文化交流館
県立美術館(リニューアル)
- 平成22年 石川県政記念しいのき迎賓館
- 平成26年 いしかわ四高記念公園、しいのき緑地
- 平成27年 いしかわ赤レンガミュージアム

●金沢城公園の整備状況と完成年

- 平成13年 菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓
- 平成22年 河北門、いもり堀
- 平成27年 橋爪門、玉泉院丸庭園、丸の内園地

兼六園周辺文化の森の整備

兼六園を中心とする一帯に多くの文化施設や歴史的な建築物が集積する「兼六園周辺文化の森」の整備を進めてきました。

金沢城公園の復元整備

金沢城公園は、特別名勝「兼六園」と一体となった県都金沢のシンボル公園として、史実に沿った本物志向の復元整備を進めてきました。

特色ある文化施設の整備

各地域の地理的・歴史的条件を踏まえた特色ある文化施設を整備しました。

銭屋五兵衛記念館、山中漆器産業技術センターの建設(平成9年)、文化財保存修復工房の整備(平成9年)、埋蔵文化財センターの建設(平成10年)、九谷焼美術館、西田幾多郎記念哲学館の建設(平成14年) 等

身近な文化活動施設の整備

県民が気軽に集い、日常的に文化活動に取り組むことができる文化施設を整備しました。

ふれあい昆虫館の建設(平成10年)、石川国際交流ラウンジの開設(平成10年)、いしかわ動物園の整備(平成11年)、日本語・日本文化研修センターの開設(平成12年)、石川国際交流サロンの開設(平成14年)、自然史資料館の整備(平成18年) 等

II 文化資源の継承と発展

伝統文化の継承と発展

先人たちが育んできた質の高い伝統芸能や伝統工芸、生活文化について、継承者の育成とその普及・発展に努めてきました。

伝統芸能の発表・鑑賞の機会の充実

小中学生が日本舞踊や箏などを鑑賞・体験する「古典芸能鑑賞教室」や、三茶屋街の芸妓による芸能を鑑賞・体験する「金沢芸妓の舞」、加賀宝生能を鑑賞する「観能の夕べ」などを開催してきました。



古典芸能鑑賞教室

「いしかわの至宝」の認定

平成24年に芸能関係では初めて「金沢素囃子長唄・鳴物」「一調一管笛」「一調一管小鼓」を県無形文化財に指定し、その保持者を「いしかわの至宝」に認定しました。

(その他の施策)

- ・顕彰の実施(文化功労賞、伝統産業優秀技術者表彰等)、伝統工芸士の認定
- ・各種文化団体の公演や展示等の文化活動に対する支援
- ・伝統工芸技術を活用した商品開発や販路開拓等への支援
- ・輪島漆芸技術研修所、九谷焼技術研修所、山中漆器産業技術センターによる後継者養成 等

文化遺産の保存と活用

長い歴史と風土に培われてきた有形・無形の文化遺産を次代に引き継ぎ、新たな文化創造の基盤とするため、文化財や地域固有の文化の保存と活用を図ってきました。

海女文化の継承・振興

輪島市では、約200人の海女が漁に従事しており、優れた漁労技術や習俗などの文化が引き継がれてきました。平成26年に「輪島の海女による伝統的素潜り漁技術」を県無形民俗文化財に指定するとともに、生業として海女漁の振興にもつなげていくため、海女の皆さんを「いしかわ里海の至宝」に認定しました。

里山里海の保全・利活用

平成23年に「能登の里山里海」が、日本で初めて世界農業遺産に認定されました。これを追い風として、県では里山里海の豊かな地域資源を活用した生業の創出や、地域住民による保全の取り組みを支援してきました。

(その他の施策)

- ・重要伝統的建造物群保存地区の保存・活用に対する支援
- ・文化財保存修復工房による文化財の修復促進
- ・金沢城の調査研究と利活用の推進
- ・「いしかわ景観総合条例」の制定による景観の保全・創出
- ・石川の食文化に関する普及啓発 等

Ⅲ 文化創造・文化交流の促進

文化創造・発信の充実

国際的・全国的な規模での文化活動を実施するとともに、民間の文化活動の積極的な展開を促し、活力ある石川の文化の創造と発信に取り組んできました。

「ラ・フォル・ジュルネ金沢音楽祭」の開催

国内外のアーティストによる一流の演奏を気軽に鑑賞することができる「ラ・フォル・ジュルネ金沢音楽祭」を、国内では2番目となる平成20年から毎年開催してきました。



ラ・フォル・ジュルネ金沢音楽祭

(その他の施策)

- ・オーケストラ・アンサンブル金沢の海外公演
- ・「いしかわミュージックアカデミー」の開催
- ・「ピエンナーレいしかわ秋の芸術祭」の開催
- ・伝統工芸の海外販路開拓に対する支援
- ・「ふるさと祭り東京」や「いしかわ伝統工芸フェア」等、首都圏でのイベントを活用した石川の文化の発信
- ・国内外における石川の食文化の魅力発信 等

国際文化交流の促進

国内外で国際文化交流を進めてきました。

- ・歴史博物館と韓国国立全州博物館チョンジュの姉妹館交流事業の実施
- ・石川国際交流ラウンジ、石川国際交流サロン、日本語・日本文化研修センターの開設(再掲) 等

文化ネットワークの形成

文化施設や人材、情報のネットワーク化を推進し、県民の文化活動や文化交流を促進してきました。

- ・県内公共ホールや文化施設の情報交換等による施設間交流
- ・世界農業遺産の価値のさらなる向上に向けた国内認定地域との連携 等

学術文化の振興

社会のあらゆる分野で独自性と創造性の原動力となる「知」の集積を高めるため、学術文化の振興に取り組みました。

- ・(一社) 大学コンソーシアム石川による大学と地域が連携した石川の文化の調査研究、情報発信
- ・国連大学サステナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニットと連携した「能登の里山里海」等の情報発信
- ・尊経閣文庫分館きんけいかくの設置(県立美術館内) 等

Ⅳ 個性的な文化創造社会の形成

芸術・文化活動の促進

県民の文化に対する関心を高め、気軽に、そして積極的に文化活動に参加できるように、文化を育む環境づくりと、文化を担う人材育成に取り組んできました。

- ・県立美術館、歴史博物館、石川四高記念文化交流館、伝統産業工芸館等における魅力ある展示
- ・「観能の夕べ」「金沢芸妓の舞」等伝統芸能の発表・鑑賞の機会の充実(再掲)
- ・文化施設や文化イベントにおけるボランティアの活用
- ・(公財) 石川県文化振興基金による文化団体への助成
- ・「石川新情報書府」による文化資産のアーカイブ化(デジタル映像化と蓄積)と情報提供 等

文化を核とする地域づくりの推進

歴史的な街並みや地域の特色ある文化活動を核とした文化性豊かなまちづくり・地域づくりを推進してきました。

- ・「能登ふるさと博」「加賀四湯博」の開催等による地域文化の発信
- ・重要伝統的建造物群保存地区の保存・活用に対する支援(再掲)
- ・兼六園周辺文化の森の整備と魅力発信(再掲)
- ・里山里海の保全・利活用(再掲)
- ・「いしかわ景観総合条例」の制定による景観の保全・創出(再掲)

等



重要伝統的建造物群保存地区(白山市白峰)

V 文化的生産システムの構築

伝統工芸・デザインと地域産業の振興

経済との関わりが深い伝統工芸・デザインの振興や、企業などの民間資金による文化活動への支援など、文化性に支えられた経済活動の発展を図ってきました。

- ・伝統工芸の首都圏での見本市出展や海外での展示商談会を通じた販路開拓の支援
- ・伝統工芸の技術を活用した専門家による商品開発の支援(再掲)
- ・デザインセンターによる県内産業へのデザイン活用の推進 等

北陸新幹線金沢開業を機とした金沢駅舎内での伝統工芸の活用

金沢駅では、数々の伝統的工芸品による石川らしいおもてなしを演出しており、ホームの柱には金箔、待合室壁面には県内の伝統的工芸品(30品目236点)が施されています。コンコースには、文化勲章受章者制作の陶壁のほか、人間国宝、日本芸術院会員など本県を代表する24人による作品が門型柱に設置されています。